



**令和7年度
すくわくプログラム活動報告書
(実施対象: 3~5歳児ひかいグループ)**



陽だまいの丘保育園



テーマ

世界

設定理由

民族衣装、刀、楽器、踊りなど世界のさまざまな文化に興味を持っているため。

活動のねらい

世界の文化や生活を知り、遊びの中に取り入れていく。

対象クラス

幼児クラス21名（内訳：3歳児/8名 4歳児/7名 5歳児/6名）

スケジュール

令和7年4月～令和8年3月

叩き染め

硬くはなるけど、アルミ
ホイルが剥がれちゃう！

アルミホイルを叩く

アルミ缶を七輪で溶かして
固め、形を作る

- 昨年度から“世界”への興味が続いており、子どもたちとweb作りをし、興味を書き出してみると、“民族衣装”、“刀”という2つのワードが上がった。
- 民族衣装の本を保育室に置いておくと、自分の好きな衣装のデザイン画を描き始めたり、遊びでしていた叩き染めや髪飾りなど衣装作りを始める。
- 刀作りは、アルミホイルを巻き直してトンカチで叩く方法を試していたが、失敗してしまう。調べていくうちにアルミ缶を溶かして型に流し、固めたものを削って形を整える方法に辿り着き、職員など身近な大人に協力してもらいながら刀を完成させる。

環境のために準備した
素材や道具

- リボン、ボンド、両面テープ、トンカチ、アルミホイル、アルミ缶、七輪
- 簡単な素材や道具を用意したことで自分で作り進める充実感を感じる。
- 仲間や身近な大人と協力する楽しさ、試行錯誤する面白さ、やりたかったことを形にする達成感を味わうことができた。

子どもたちの育ち

浴衣作り



お姉さん
みたいに…!



異年齢で作り方を
教え合う

夏まつり展示



スペインのカスタネット
は親指に付けるんだ!



- 浴衣や笠、帽子などを作るために裁縫や刺繍など少し難しい方法に挑戦する。『夏まつりで作った衣装を展示したい!』ということになり、子どもたちが作った各国の衣装を展示した。
- 衣装の用途や背景にも興味を持ち、その中でも“フラメンコ”へ関心が強まり、衣装や踊りへと発展する。“本物のフラメンコが見たい!”という声上がり、フラメンコ講師の方に来ていただき本場の踊りや衣装、道具を見せてもらった。

環境のために準備した
素材や道具

- 装飾素材、布、裁縫道具、牛乳パック、ボンド

子どもたちの育ち

- 針で縫い合わせるという本物の作り方を経験することで、制作の幅が広がる。
- 年上の友だちの姿に魅了され、異年齢で制作方法を教え合うなど、関わりも深まった。
- 本物のフラメンコに触れたことで、遊びへのイメージや思いがさらに膨らんだ。

「あーすぷらざ」への遠足



日本の和太鼓とは違って
手で叩くの面白い！



ケニアとの世界タッチ



ジャンボ！

あーすぷらざにあった
楽器だ！

触れたり見たりした楽器
ジャンベ・ガンザを制作して演奏



- 興味のある“世界”についてもっと知りたいと、あーすぷらざに行く。各国の衣装や楽器、生活の文化など、実物に触れることで、世界を身近に感じるようになる。
- 国際交流としてオンラインで他国の友だちと繋がりを持つ“世界タッチ”を活用する。相手と近づくためにその国の言葉を調べたり、異国の文化や暮らしへの興味を深めたりする。

環境のために準備した
素材や道具

子どもたちの育ち

- あーすぷらざ、世界タッチ、楽器作りに必要なもの（プランター、空き缶など）
- 世界と繋がる方法の一つとして、他国の言葉を知ろうとする。
- 体験したことを活かし、遊びに取り入れる。

お楽しみ会



世界のグルメを知りたい!



ピロシキクッキング

電卓で計算して
みよう!材料を買うための
予算を調べ、計算する

順番に捏ねよう!

プロジェクトまとめ
自分の国づくりハートでいっぱい
サッカーボールの国旗

- お楽しみ会で、今までやってきた世界のことや作ったものを紹介し、保護者に見てもらうことで、自己肯定感に繋がる。
- お楽しみ会の振り返りをする中で、世界のグルメについて知りたいという声上がり、中でも「ピロシキ」に興味を持つ。クッキング実施に向けて、材料を話し合ったり、予算を調べたりする。
- 一年を通して様々な国に触れてきた。集大成として、“こんな国があったら...”と自分の国づくりを試みる。自分の好きなもの、遊びの中で知った他国の文化などを取り入れる姿がある。

環境のために準備した
素材や道具

- 世界の料理本、iPad、スーパーの広告

子どもたちの育ち

- 共通の目的に向かって、必要な情報を調べ、自分の考えを伝え合う。
- 調べる中で、文字や数字に触れ、書き出したり計算したりする。

全体の振り返り

- “世界”という大きなテーマを中心に一人ひとりがやりたいことをする中で、フラメンコや民族衣装、楽器など本物に触れる経験をし、よりイメージが広がり、遊びの中でこだわって制作する姿が見られた。また、世界タッチなど世界の人と繋がる機会があり、コミュニケーションの手段として他国の言葉や文化を調べて生活や遊びに取り入れ、世界を身近に感じられるようになった。
- 保護者や職員、フラメンコ講師などの大人との関わりから、新たな発見や情報の幅が広がった。

